



おかむら・りゅういちろう 1977年鳥取大学医学部卒業。同第二外科入局、82年医学博士取得、同年医学部助手、84年公立社病院(現加東市民病院)外科を経て92年より現職。日本外科学会(専門医)ほか。一般社団法人小野市加東市医師会副会長。



## 天文への夢を抱き続けて

私の生まれは京都、幼稚園から高校までは大阪で過ごしました。当時は、大阪でも夜空に天の川がきれいに見えました。小学生の頃より天文に興味を抱き、伝記や図鑑を読みあさっては、高価で買えない望遠鏡の代わりにカタログの世界で夢を膨らませ、将来天文学を専攻する目標をもっていました。しかし、中学、高校と進むうち、天文以上に興味を抱いた医学部に入学、しばらくは天文学とは距離を置き、医師として過ごしていました。

医学部卒業後は、外科の医局に入局。大学院を含め約15年間は、大学病院や一般病院で外科医として過ごした後、40歳で兵庫県小野市に開院しました。この頃より長く眠っていた天文の虫が約20年の時を経て騒ぎだし、以前は高嶺の花であった天体望遠鏡を1994年に手に入れました。自宅と医院の移動観望が中心で体力に任せて重い機材(ペンタックス15cm屈折望遠鏡)の移動を楽しんでいましたが、組み立ての労力と時間が惜しくなりました。2005年に医院の移転を契機に、2階ベランダに30cmの反射望遠鏡を据え置きで設置したものの、設置場所は雨ざらしのため気を使うことも多く、観望の機会も徐々に減少。どうしたものかと次のステップを考えていました。

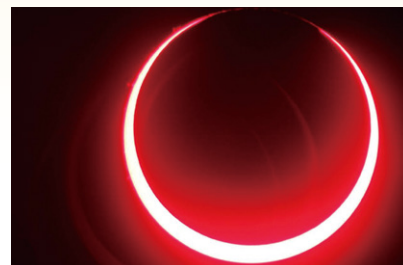
その後、医院の屋上の高さから見渡すと周囲の景色が一変することを発見。天体観望には最適な視界の広さに感動し、思い切って12年に医院に3階建てのスライドルーフ付観望室を増築しました。この観望室を『龍星庵』と名付け、現在3台の架台に搭載した9台の天体望遠鏡を稼働させています(写真1)。ついに少年時代からの天文への夢をかなえ、夢は膨らむ一方で、



(写真1) 2012年に完成したスライドルーフ付観望室『龍星庵』。9台の天体望遠鏡を稼働させている。

毎日楽しい悩みを抱えて趣味と仕事に励んでおります。

赤道儀は、各々コンピューター制御のもと、即座に天体を自動で導入・追従可能です。このため、診療後の慌ただしい時間にも効率よく楽しめるのは最高です。完成の年には、皆既日食(写真2)・金星の日面通過も見られ、昨年は皆既月食の写真撮影後、合成処理(写真3)にも挑戦し



(写真2) 2012年5月に撮影した皆既日食。神秘的な天体ショーを満喫した。



(写真3) 2014年10月に撮影した皆既月食。合成処理を施すなどドラマチックな作品作りにも挑戦。

ました。このようなイベント時には、『龍星庵』に多くの仲間を呼び写真撮影・観望を楽しんできました。

イベント以外でも、この2年間、月に一回程度「星見会」と称する仲間内の観望会を開催しており、星仲間と共に夜遅くまで楽しんでいます。この星仲間の輪は少しずつ広がり、小野市や丹波市の個人天文台で「星見会」を開くことも増え、趣味の世界を大いに満喫しております。

メンバーには、私をはるかにしのぐ天文に詳しい人が多く集まり、深い知識や情報を提供して下さいます。専門家だけでなく、素人で天文に興味をもつ方々も参加されて非常に楽しい時間を過ごせており、今後も継続、発展させていければと期待を大きくしています。

最近では、彗星や星雲の写真にも挑戦し、興味は膨らむ一方で、尽きることがありません。おかげで、時間には追われますが、私にとっては最高のストレス解消であり、日々の仕事への張り合いにもなっております。この趣味の天文に関して今後一層、知識と技術と経験を積んでいく必要があると考えています。それは医学以外の道でも同じなのだと、医師になった若い頃を思い起こしながら、改めて痛感しているこの頃です。